唐門

唐門はここまで登場した3つの門と比べると、最も小さく、彫刻も他の門に施された守護神とは大きな違いがあります。通路の上には、一対の龍と一組の鶴の彫刻が施されています。この龍は家光の干支と同じもので、また鶴は長寿を意味するのです。さらに羽目版に沿って施された彫刻は、百羽の鳩です。鳩は武運の神である「八幡」と深いかかわりがあり、徳川家の軍事力をも象徴しています。ここを通るということは、下界の危険な世界を通り抜け、天上世界へと近づきつつあることを表現しています。

唐門の名前の由来は、門に施された巨大な唐破風の切妻です。唐破風はリカーブボウにも似た、反り返ったアーチを特徴としています。この様式は高く評価され、高い階級を示すようになっていたため、家光の霊廟へと至る入り口にも使用されています。唐門のデザインは中国風建築様式の一種であることから、”中国の門”とも呼ばれました。しかしこの形も夜叉門と同様に日本化した中国様式です。